

心理学研究科 博士(後期)課程

授業科目名	高次脳機能研究 集中E			担当者	田尻 直輝		
配当学科・研究科	2018～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	学位授与方針(1)に関連し、教育過程の編成・実施方針に記載されている医学関連科目である。外部からの感覚刺激(「五感」=体性感覚・視覚・聴覚・嗅覚・味覚)を認知し、それによって引き起こされる感情・思考・判断に応じて、筋肉を収縮させて運動(行動)を起こす。その基礎に、意識・記憶・知能などがあり、外部からの入力情報を処理し、内部で決定された出力情報を伝達し、統御するのが神経系の基本的な働きである。だが、これらの過程の障害により、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの高次脳機能障害が出現し、日常生活や社会生活が制限される。本講義では、前半で脳・神経系の解剖学と生理学の基礎知識を再確認するための講義を行い、後半では論文(日本語・英語)を元に、最新の知識の習得と研究方法論の体得を到達目標とする。						
授業概要	臨床・研究・教育現場で、約17年以上、解剖生理学、脳神経科学、高次脳機能障害学、リハビリテーション科学に特化した実務経験を持っている。その経験をもとに、精力的に学生指導に当たる。脳ところは、非常に密接な関係があり、そこから付随する疾患は多岐にわたる。こころの理解を深めていくためには、まず脳の構造や機能を十分に理解する必要がある。まずはじめに、脳・神経系の解剖学と生理学の概略を説明する。その後、運動制御のメカニズム、高次脳機能の概論、各種感覚の認知、意識、記憶、知能の捉え方やそれらの障害に関する講義をする。また、最新の論文(日本語・英語)を収集して、検討・討論を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング(複合的なもの等)						
評価方法と割合	成績評価は、論文抄読(日本語・英語)やレポート課題などによる討論を行い、その対応(80%)で評価する。最終評価は、口頭試験(20%)で行う。本講義では、参加型学習を主体としているため、積極的な発言や応答を求める。評価方法については、討論への参加状況や応答及び対話における理解度などを参考にする。また論文や課題に対する知識力・理解力・考察力も重視するので、そのつもりで講義に臨むこと。詳細な評価方法は、最初のオリエンテーション時に説明する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	電子メールにて、やりとりを行う。						
履修条件・注意事項	必要プリントは、あらかじめ講義毎に予習・復習ができるように配布する。本講義では、脳・神経系の解剖学と生理学の基礎知識が必要である。まずはじめに、高次脳機能を理解するために必要な解剖学と生理学の基本的な概略を説明する。専門用語などが数多く出てくるので、講義期間内でしっかりと自己学修をしてほしい。後半では、最新の論文(日本語・英語)を読解し、知識力・理解力・考察力を深めていってもらいたい。不明な点があれば、随時積極的に質問してほしい。 また、教科書は使用しない(講義毎にプリントを配布する)。配布資料の中で、参考になっている教科書を下記に記載しておく。						
事前学習・事後学習とその時間	上記に記載した履修条件・注意事項を参考にすること。講義で配布したプリントや参考書を参考にして、必ず予習・復習をしておくこと。予習・復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	講義の合間・終了後に実施する。 電子メールでも対応する。						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション講義						田尻	
2. 脳・神経の仕組み(概略Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)						田尻	
3. 運動制御(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)						田尻	
4. 高次脳機能総論						田尻	
5. 意識とその障害						田尻	
6. 記憶とその障害						田尻	
7. 知能とその障害						田尻	
8. 言語とその障害						田尻	
9. 失読と失書・失行と失認						田尻	
※ここまでは講義形式で行う。後半は上記に関連した論文(日本語・英語)を抄読し、討論を行う。論文について						田尻	

ては、その時点で入手できる最新のものとする。	田尻
10. 論文抄読会	田尻
11. 論文抄読会	田尻
12. 論文抄読会	田尻
13. 論文抄読会	田尻
14. 論文抄読会	田尻
15. 論文抄読会	田尻
16. 単位認定試験（口頭試問）	田尻

教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	高次脳機能障害学（第2版）	参・出版社名 1	医歯薬出版株式会社
参・著者名 1	石合純夫	参・ I S B N 1	978-4-263-21396-4
参・書籍名 2	神経科学－脳の探求－	参・出版社名2	西村書店
参・著者名2	加藤宏司	参・ I S B N 2	978-4-89013-356-7

授業科目名	認知生理心理学研究			担当者	橋本 翠		
配当学科・研究科	2018～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	【テーマ】 人間が環境に適応するための認知情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について理解する。 【到達目標】 認知心理学領域における最新の研究テーマを概観しながら、情報処理過程(知的活動を担う心的過程)について修得する。						
授業概要	本講では、認知心理学領域で扱われている最新のテーマを概観しながら、他心理学領域との関連性についても言及するとともに、人間の認知機能が日常生活のなかで、どのように働いているのかという日常認知の問題についても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	学修態度（減点法）、ディスカッションへの参加度(minutes paper含む)40%，定期試験の得点60%の合計点により総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	minutes paperについては授業開始前に返却しフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	博士(後期)課程の学修に相応しい積極的な取組みを期待する。発表担当者は、レジュメを作成し発表に臨むこと。						
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回、次の講義内容について指示をするので、関連書籍を読み、各回の内容について学習すること。復習については、授業時に配布する資料を読み、関連書籍と併せて内容を理解し、身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること。						
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室						
授業計画						担当者	
教科書							
教・書籍名1	配布資料				教・出版社名1		
教・著者名1					教・I S B N 1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1	認知・学習心理学 心理学研究の新世紀1				参・出版社名1	ミネルヴァ書房	
参・著者名1	深田博己(監修) 宮谷真人・中條和光(編著)				参・I S B N 1	978-4-623-06233-1	
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	生涯発達適応心理学研究			担当者	三宅 俊治		
配当学科・研究科	2018～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	生涯にわたる心理的成長・発達の理論について検討するのがテーマである。生涯発達過程における不安が、対人関係、身体認知、自己評価、自我発達などと関連し、心理社会的適応過程の鍵となっていることを、文献講読を通して把握する。7割以上の理解を達成目標とする。						
授業概要	生涯を通して人生の節目や重要なライフイベントには不安が喚起される。誰もが経験するこの健常不安は一般に、意識・行動の抑制に関わっているが、その一方で不安状況を克服し、建設的解決を図る動機づけを促す。耐性の獲得や自我発達はそのような過程を通して励起される。生涯発達過程における不安の変化について、時間的展望を縦糸として、対人関係、身体認知、自己評価などを横糸として織りなされる適応の心理過程や自我発達と関連づけて検討する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	レポート課題による。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に解説を行う。						
履修条件・注意事項	核となる文献は、丹念に、繰り返し、読んでいくことが重要と考えます。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習の証左として、毎回、指定箇所についてレポートを提出すること（提出されたレポートについては返却する）。						
オフィスアワー	日時：毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。						
授業計画						担当者	
1. orientation 2. 生涯発達と心理学 3. 生涯発達の理論 4. 発達における遺伝と環境 5. アタッチメントと母子関係 6. 母親からの分離と遊びの意味 7. 学びと社会化 8. 自己への目覚めと悩み 9. 自我発達の理論 10. 青年期の自我同一性 11. 成人初期の発達の課題 12. 中年期危機と親子関係の変化 13. 中年期世代性を捉える 14. 老年期における自我の統合 15. 老年期の発達の課題とライフヒストリーの回想 16. 定期試験						1. 三宅俊治 2. 三宅俊治 3. 三宅俊治 4. 三宅俊治 5. 三宅俊治 6. 三宅俊治 7. 三宅俊治 8. 三宅俊治 9. 三宅俊治 10. 三宅俊治 11. 三宅俊治 12. 三宅俊治 13. 三宅俊治 14. 三宅俊治 15. 三宅俊治 16. 三宅俊治	
教科書							
教・書籍名1	エピソードでつかむ生涯発達心理学				教・出版社名1	ミネルヴァ書房	
教・著者名1	岡本祐子・深瀬裕子（編著）				教・I S B N 1	ISBN978-4-623-06531-8	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

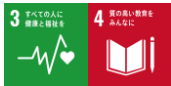
参・I S B N2

授業科目名	認知行動心理学研究			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2018～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	テーマ：無意図的な心的な活動について、特に記憶研究を中心に検討する。 到達目標：記憶の不思議さ・重要性について理解を深めるとともに、特に、無意図的な想起に関する研究方法・実験的研究のあり方を修得する。						
授業概要	私たちの日常における記憶の想起には、思い出そうとして思い出する場合だけでなく、ふと心に浮かぶ、突然思い出されるというように、想起しようという意図が伴わない場合も多い。あるいは思い出したという意識がないままに、記憶が情報処理に影響を及ぼしていることも多い。 本講義では、日常の記憶の様々な現象をもとに、意図的・無意図的な記憶の認知活動が行動に及ぼす影響について基本事項を概説し、そこで用いられた研究方法・実験方法の詳細を学生が調べて発表するという形式で行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業内で行う小テスト（ミニ・レポート）40％と課題の提出・発表40％、そして最終レポート20％で評価する。小テスト等はコメントをつけて返却する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、後日返却し、必要に応じて解説を加える。 発表等の都度、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	必要に応じて記憶に関する学術論文（英文を含む）を読み、その内容紹介が求められる。						
事前学習・事後学習とその時間	テキストの精読は当然であるが、テキスト内で引用されている論文も積極的に読み込み、理解を深めること。						
オフィスアワー	月曜4限、教員研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. 自伝的記憶 3. 自伝的記憶の無意図的想起 4. 自伝的記憶に関する論文紹介 5. プルースト現象 6. プルースト現象の論文紹介 7. 展望的記憶の無意図的想起 8. 展望記憶に関する論文紹介 9. ひらめきと問題解決 10. マインドワンダリング 11. マインドワンダリングの論文紹介 12. 思考抑制の意図せざる影響 13. 記憶とPTSD 14. まとめ						森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井 森井	
教科書							
教・書籍名1	『ふと浮かぶ記憶と思考の心理学』				教・出版社名1	北大路書房	
教・著者名1	関口・森田・雨宮(編著)				教・I S B N 1	978-4-7628-2849-2	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・I S B N 2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		

参・著者名2

参・I S B N2

授業科目名	心理療法学研究			担当者	津川 秀夫		
配当学科・研究科	2018～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	今期は、第3世代CBTの中心的役割を担うマインドフルネスをテーマとする。 マインドフルネスについての原典や研究成果を把握すること、マインドフルネスを体験的に知ることを到達目標とする。						
授業概要	第3世代の認知行動療法において、マインドフルネスは中心的な役割を担っている。しかし、マインドフルネスはCBTにおける学習理論や情報処理理論によるものではなく、初期仏教にその起源がある。本科目では、瞑想修行に用いられるマインドフルネスと、心理療法において用いられるマインドフルネスの相違点について理解を深める。 また、類似点が指摘されることの多いエリクソニアン・アプローチとの比較も行う。これらに加え、マインドフルネスを実際に実習し、受講者各自がマインドフルネス体験を積む機会を提供する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	取組み姿勢、発表、レポートにより評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題については授業時にフィードバックする。						
履修条件・注意事項	マインドフルネスの実習も行うため、坐りやすい服（ジャージなど）を用意すること。						
事前学習・事後学習とその時間	マインドフルネスは知的な理解だけでは身につくものではない。わずかな時間でもよいから日々の実習を期待する。						
オフィスアワー	月曜日5時限、個人研究室						
授業計画						担当者	
1. オリエンテーション 2. マインドフルネスとは 3. 反すう 4. 脱中心化 5. 「今ここ」の観察：数息 6. 「今ここ」の観察：歩行 7. 「今ここ」の観察：随息 8. マインドフルネス認知療法 9. ACT 10. 弁証法的行動療法 11. 無常、苦、無我 12. 12因縁 13. バッドトランスと催眠現象 14. 解催眠とマインドフルネス 15. まとめ 16. レポート						津川秀夫	
教科書							
教・書籍名1	マインドフルネス：基礎と実践				教・出版社名1	日本評論社	
教・著者名1	貝谷久宣・熊野宏昭・越川 房子				教・I S B N 1	4535984247	
教・書籍名2	大念処経				教・出版社名2	サンガ	
教・著者名2	スマナサーラ				教・I S B N 2	4865640363	
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		
参・著者名1					参・I S B N 1		
参・書籍名2					参・出版社名2		
参・著者名2					参・I S B N 2		

授業科目名	精神医学研究			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2018～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・講義課題発表
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：最新の脳科学的知見からこころの働きを理解できる。 到達目標：学生は、精神症状の脳科学的理解に立脚した心理的介入が行えるようになる。						
授業概要	不安・抑うつ・依存・記憶・ストレスなどの高次脳機能のメカニズムについて治療薬の機序も合わせ、脳画像学・分子生物学・エピジェネティクスの領域から、最先端の知見を学ぶ。スライド原稿を資料として配付する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	テーマ「最新の脳科学的知見からこころの働きを理解できる」の到達度について、知識および能力を計るために、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための課題発表（80％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（20％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート及び発表には、適宜コメントでフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義では毎回プリントを配布するので、紛失しないようファイルにまとめて保存して、必要な項目が取り出せるようきちんと準備する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。講義で配布されたレジメと講義中に作成したメモを対象に、予習・復習を各1時間程度行う。						
オフィスアワー	火曜日3限目、6号館4F6401号研究室						
授業計画						担当者	
1. ストレス総論 2. ストレスの分子内分泌学 3. 抑うつの脳科学 4. 養育環境の脳科学 5. 不安・恐怖の脳科学 6. PTSDの病態 7. PTSDの新規治療法開発 8. 記憶の分類 9. 記憶形成の脳科学 10. エピジェネティクス（ 11. 依存の脳科学 12. 向精神薬の薬理作用 13. 課題選択とグループ討論 14. 課題研究発表(I) 15. 課題研究発表(II)						森信 繁	
教科書							
教・書籍名1	標準精神医学				教・出版社名1	医学書院	
教・著者名1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編				教・ISBN1	ISBN978-4-260-02041-1	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							
参・書籍名1					参・出版社名1		

参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	発達障害学研究			担当者	日上 耕司		
配当学科・研究科	2018～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限 金曜3限
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	発達障害の基礎的知識と当事者およびその周辺の人々への支援について探究する。 1. 発達障害者支援において必須の理論的基盤である応用行動分析について説明できる。 2. 限局性学習症, 自閉スペクトラム症, および注意欠如・多動症について, その定義や診断基準, およびこれらの共通点と 相違点を説明することができる。 3. 限局性学習症, 自閉スペクトラム症, および注意欠如・多動症について, そのアセスメント方法を説明することができる。 4. 限局性学習症, 自閉スペクトラム症, および注意欠如・多動症について, その当事者と周辺の人々が直面する困難やその 支援方法を説明することができる。						
授業概要	発達障害とは, 中枢神経系の機能不全を背景として乳児期・児童期に発症する障害であり, 代表的なものとしては, 自閉スペクトラム症 (ASD: Autism Spectrum Disorder), 限局性学習症 (LD: Specific Learning Disorder), 注意欠如・多動症 (AD/HD: Attention-Deficit/ Hyper-activity Disorder) などがある。これらの障害の特性と, その障害のある本人および周囲の人々への支援について, 応用行動分析の観点から探究する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への取り組み姿勢、プレゼンテーション、レポート、確認テスト等を総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	プレゼンテーション, レポート等については, 授業時に適宜フィードバックする。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。						
事前学習・事後学習とその時間	各回のテーマについて予習し、疑問点を整理した上で授業を受けること。また、復習として各回の学びをレポートまとめること。各1時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	講義終了後、教室において実施する。						
授業計画						担当者	
1. 応用行動分析の基礎理論①：レスポナント条件づけ 2. 応用行動分析の基礎理論②：オペラント条件づけ 3. 応用行動分析に基づく介入の手順と技法 4. 応用行動分析に基づく機能的アセスメントと機能的コミュニケーション訓練の事例 5. 発達障害の分類と特性と障害理解 6. 自閉スペクトラム症の診断基準と行動特性 7. 自閉スペクトラム症者への社会性への支援 8. 自閉スペクトラム症者の家族(保護者・きょうだい)への支援 9. 自閉スペクトラム症者の社会参加への支援 10. 限局性学習症の診断基準と行動特性 11. 限局性学習症者への支援 12. 注意欠如多動症の診断基準と行動特性 13. 注意欠如多動症者の家族や学校への支援 14. 発達障害者への合理的配慮 15. まとめ						日上 耕司	
教科書							
教・書籍名1	応用行動分析学 ヒューマンサービスを改善する行動科学				教・出版社名1	新曜社	
教・著者名1	島宗 理				教・I S B N 1	ISBN978-4-7885-1622-9	
教・書籍名2	ケースで学ぶ行動分析による問題解決				教・出版社名2	金剛出版	

教・著者名2	日本行動分析学会（編）	教・ I S B N 2	ISBN978-4-7724-1448-7
参考書			
参・書籍名 1	DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き	参・出版社名 1	医学書院
参・著者名 1	高橋三郎・大野裕（監訳）	参・ I S B N 1	ISBN978-4-260-01908-8
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	心理学研究指導 2022年度入学生			担当者	森信 繁		
配当学科・研究科	2018～2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180時間	授業形態	課題学習・発表
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに  						
到達目標	テーマ：ストレスと精神機能の関連を理解する。 到達目標：学生は、上記テーマに関する以下のどちらかについて研究を立案・実践出来るようになる。 1) 健康者を対象とした環境に由来するストレス度の評価や、ストレスによる精神機能の変化についての、疫学的及び社会科学研究 2) 精神障害の病態形成におよぼすストレスのメカニズムに関する、分子神経科学的研究 学生は、上記についての研究を行い、博士号を取得する。						
授業概要	1) 疫学的研究 健康者の日々の暮らしの中での環境から由来するストレス度の評価や、ストレスに対する適応・不適応行動を調査して、精神障害の発症に対する予防的な介入法を考える。 健康者の就労状況から由来するストレス度の評価や、ストレスによる業務への適応・不適応行動の調査を行い、精神障害の発症に対する予防的な介入法を考える。 上記の疫学的研究を行う場合は、既に学生が研究を行うフィールドを保有しているか、あるいはパーソナルなコネクションのある事が望ましい。 2) 臨床研究 うつ病を対象に末梢血由来のDNAを用いた遺伝子メチル化の計測による、うつ病の診断・治療予測バイオマーカーの開発を行う。 3) 動物実験 外傷後ストレス障害(PTSD)モデルラットを用いて、PTSD患者に見られる恐怖記憶の消去の障害の脳内メカニズムについて研究を行い、認知行動療法の効果促進についての新規治療法を開発する。 ストレス暴露によるエピジェネティック機構の変化について、ストレス負荷ラットの脳および血液を用いてDNAメチル化の観点から研究を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	博士論文の完成と研究科教授会の審査。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	学生は研究計画や研究進捗状況をその都度発表し、内容についてのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	博士課程の大学院生として、これまでの同領域の国際的な研究背景からみて、新たな魅力ある研究テーマを考え、共同研究も含めた具体的な研究計画書を作成し、能動的に実験を行うことを期待する。研究発表は、口頭発表および論文発表のいずれも、英文での作成を期待する。						
事前学習・事後学習とその時間	日頃から新聞・ネットで報道される、脳科学分野の記事を読み、記事のベースとなっている論文を検索する。日々の実験以外に、出来ればその日の実験結果に関する文献的考察を1時間と、翌日の実験についての予習を1時間行う。						
オフィスアワー	火曜3限、6号館4階6401研究室						
授業計画						担当者	
1年次 春学期 ①研究倫理に準拠した責任ある研究活動 ②関連研究の紹介 ③関連研究の批判 ④関連研究と博論の関係の吟味 ⑤博論における理論的背景 ⑥先行研究群の方法の吟味 ⑦先行研究群の方法論の整理							

- ⑧先行研究群のデータ収集の問題
- ⑨先行研究群のデータ分析の問題
- ⑩先行研究群の結果の標記の吟味
- ⑪先行研究群の結果の整理
- ⑫先行研究群の結果に対する疑義
- ⑬先行研究群の結果のまとめ
- ⑭先行研究群の考察の吟味

1 年次 秋学期

- ①関連研究における博論の位置
- ②博論全般の計画
- ③博論の構想の新奇性
- ④博論における研究計画の論理性
- ⑤博論の基礎となる理論
- ⑥博論と関連研究の理論の吟味
- ⑦博論における研究方法の工夫
- ⑧博論の研究方法の問題の改善
- ⑨博論の研究データの分析方針
- ⑩博論の研究結果の記述方針
- ⑪博論の研究結果の表記方針
- ⑫博論の研究結果のまとめ方
- ⑬博論の研究の考察上の視点
- ⑭博論と他家の考察の吟味
- ⑮他家の研究の考察のまとめ

2 年次 春学期

- ①関連研究における博論の意義
- ②博論の目的
- ③博論の新奇性
- ④博論の論理性
- ⑤博論の理論的背景の考察
- ⑥博論の研究方法の吟味
- ⑦博論の研究方法の問題の発見
- ⑧博論の研究方法の問題の改善
- ⑨博論の研究データの分析方針
- ⑩博論の研究結果の標記の吟味
- ⑪博論の研究結果の把握
- ⑫博論の研究結果に対する疑義
- ⑬博論の研究結果のまとめ
- ⑭博論の考察の吟味
- ⑮博論の考察のまとめ

2 年次 秋学期

- ①博論の研究と先行研究の関連
- ②博論と関連研究の方法の比較
- ③関連研究の方法の整理と分類
- ④関連研究の方法論の問題点
- ⑤博論の研究の理論的背景の吟味
- ⑥博論の研究の方法論的意義
- ⑦博論の研究データの記述
- ⑧博論の研究データの分析
- ⑨博論の研究データ分析の問題
- ⑩博論の研究結果の標記の吟味
- ⑪博論の研究結果の整理
- ⑫博論の研究結果に対する問題点

森信 繁

- ⑬博論の研究結果のまとめ
- ⑭博論の考察の吟味
- ⑮博論の今までの研究のまとめ

3 年次 春学期

- ①先行研究と博論の連関
- ②先行の関連研究の統括
- ③新奇性の再検討
- ④論理性の再検討
- ⑤理論的背景の再検討
- ⑥先行研究と博論の方法の吟味
- ⑦先行研究と博論のデータ比較
- ⑧先行研究と博論の方法論の比較
- ⑨先行研究と博論データの比較
- ⑩先行研究と博論の結果の比較
- ⑪先行研究と博論の結果の関連
- ⑫先行研究と博論の結果の検討
- ⑬先行研究と博論の結果の統合性
- ⑭先行研究と博論の考察の比較
- ⑮先行研究と博論の考察の比較

3 年次 秋学期

- ①研究の概観
- ②博論の研究の問題点
- ③研究の新奇性
- ④研究の論理性
- ⑤理論的背景の考察
- ⑥論文の標記法
- ⑦先行研究の検討
- ⑧目的の検討
- ⑨方法に関連した操作の記述
- ⑩方法の記述
- ⑪結果の記述
- ⑫考察の記述
- ⑬研究全体のまとめ
- ⑭今後の方針
- ⑮引用文献の記述

教科書

教・書籍名 1	標準精神医学	教・出版社名 1	医学書院
教・著者名 1	尾崎紀夫・三村 将・水野雅文・村井俊哉 編	教・ I S B N 1	ISBN978-4-260-03246
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	心理学研究指導 2022年度入学生			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2018～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 						
到達目標	認知心理学・学習心理学を基盤にした博士の学位請求論文の完成						
授業概要	各自の研究テーマに沿って、先行研究の概観、問題の提示、目的、方法、結果、考察等を検討し、自らの研究・実験の実施，論文作成へ繋げる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	博士論文の完成に向けた取組、査読論文の作成・完成をもって評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表の都度、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	精神的に健康であること。自主的な学修態度を有すること。						
事前学習・事後学習とその時間	自学自習を怠らず、自己の研究テーマだけでなく幅広い領域に関心を持って、それらを相互に関連づけるよう努力すること。						
オフィスアワー	月曜4限、研究室。						
授業計画						担当者	
1年次 春学期						森井	
①オリエンテーション						森井	
②博論テーマの発表						森井	
③博論における理論的背景						森井	
④関連研究の紹介と批判						森井	
⑤関連研究と博論の関係の吟味						森井	
⑥関連文献の精読①						森井	
⑦関連文献の精読②						森井	
⑧関連文献の精読③						森井	
⑨先行研究の方法上の問題点						森井	
⑩先行研究の分析上の問題点						森井	
⑪先行研究の結果の整理上の問題						森井	
⑫先行研究群の問題の総括						森井	
⑬関連他領域文献の収集						森井	
⑭関連他領域文献の紹介・吟味						森井	
⑮博論研究テーマ再考							
1 年次 秋学期						森井	
①オリエンテーション						森井	
②博論全般の計画						森井	
③博論の構想の新奇性						森井	
④博論における研究計画						森井	
⑤第1研究の実施計画の検討						森井	
⑥第1研究の準備（実験材料）						森井	
⑦第1研究の準備（プログラム）						森井	
⑧第1研究の実施とデータ収集						森井	
⑨第1研究の中間データの分析						森井	
⑩第1研究の手続き等の微調整						森井	
⑪第1研究の最終データの分析						森井	

⑫第 1 研究の結果の整理	森井
⑬第 1 研究の考察と展望	森井
⑭学会発表・論文作成の準備	森井
⑮博論構想の再検討	
2 年次 春学期	森井
①オリエンテーション	森井
②第 1 研究の問題点	森井
③博論の目的・新規性	森井
④博論の研究手法の吟味	森井
⑤第 2 研究の実施計画の検討	森井
⑥第 2 研究の準備（材料の検討）	森井
⑦第 2 研究の準備（手続き確認）	森井
⑧第 2 研究の実施とデータ収集	森井
⑨第 2 研究の中間データの分析	森井
⑩第 2 研究の手続き等の調整	森井
⑪第 2 研究のデータ収集と分析	森井
⑫第 2 研究の結果の整理と考察	森井
⑬博論構想と研究 1・2 の総括	森井
⑭データの分析方法の再吟味	森井
⑮査読論文作成の検討	
2 年次 秋学期	森井
①オリエンテーション：論文作成	森井
②博論と関連研究の方法の比較	森井
③関連研究の方法の整理と分類	森井
④関連研究の方法論の問題点	森井
⑤博論の研究の理論的背景の吟味	森井
⑥博論の研究の方法論的意義	森井
⑦投稿論文 2 編についての検討	森井
⑧査読論文作成のための検討	森井
⑨査読論文の目的とデータの評価	森井
⑩査読論文作成のための結果整理	森井
⑪査読論文の投稿準備・問題把握	森井
⑫第 2 投稿論文の構想の検討	森井
⑬第 3 研究の目的・方法の検討	森井
⑭第 3 研究関連文献の収集・精読	森井
⑮第 3 研究の準備	
3 年次 春学期	森井
①オリエンテーション：博論構成	森井
②第 3 研究の必要性の再吟味	森井
③新奇性・論理性の再検討	森井
④理論的背景の再検討	森井
⑤第 3 研究の実施・データ収集	森井
⑥第 3 研究のデータ分析	森井
⑦第 3 研究の結果の整理	森井
⑧先行研究と結果の比較	森井
⑨第 2 投稿論文に向けた問題整理	森井
⑩第 2 投稿論文の作成	森井
⑪博論の構成と問題点の検討	森井
⑫博論のデータ分析法の再検討	森井
⑬先行研究と博論の結果の統合性	森井
⑭先行研究と博論の考察の比較	森井
⑮先行研究と博論の考察の統合	

- 3 年次 秋学期
- ①オリエンテーション
 - ②博論の研究の概観
 - ③研究の新奇性
 - ④研究の論理性
 - ⑤理論的背景の再考察
 - ⑥論文の標記法
 - ⑦先行研究の再検討
 - ⑧目的の再検討
 - ⑨方法の記述
 - ⑩分析法の再検討と記述
 - ⑪結果の再検討と記述
 - ⑫考察の再検討と記述
 - ⑬研究全体のまとめ
 - ⑭引用文献の整理と記述
 - ⑮今後の展望

森井
森井
森井
森井
森井
森井
森井
森井
森井
森井
森井
森井
森井
森井

教科書			
教・書籍名 1	テキストは使用しない。随時，資料を配付。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	心理学研究指導 2022年度入学生			担当者	森信 繁、三宅 俊治		
配当学科・研究科	2018～ 2022年度 吉備国際大学 大学院 心理研究科 心理学博士後1年			ナンバリング			
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	180	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	生涯発達適応心理学をテーマとした博士論文の作成						
授業概要	各自の研究テーマに関して、学界に貢献しうる研究成果を公表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	年間60時間の演習を3年間積み重ねて、心理学関連の学術誌に掲載されることによって、12単位が与えられる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	発表や presentation の都度、フィード・バックを行う。						
履修条件・注意事項	主体的かつ前向きな研究態度が望まれる。						
事前学習・事後学習とその時間	各自の研究テーマに関して、関連論文から学界に貢献できる問題点を見出し、批判的態度で文献を読破する。その上で、客観的で斬新な方法論を考案する。実験・調査・観察などの方法に基づいて、データを収集する。さらに、データの分析を通して、関連研究との移動について考察する。						
オフィスアワー	火曜日3限、研究室。						
授業計画						担当者	
1年次・春学期 ①オリエンテーション ②博論のテーマ ③修士論文で明らかになった点の説明 ④修士論文の問題点 ⑤修士論文の内容と博士論文の関係 ⑥博士論文で取り上げようとしている問題 ⑦博士論文のテーマに関連した文献の紹介 ⑧博士論文のテーマに関連した特定の論文の問題点の検討 ⑨博士論文のテーマに関連した特定の論文の方法論の検討 ⑩博士論文のテーマに関連した特定の論文の結果の検討 ⑪博士論文のテーマに関連した特定の論文のデータ分析の検討 ⑫博士論文のテーマに関連した特定の論文の考察の検討 ⑬博士論文のテーマに関連した特定の論文の考察で出見いだされた問題点の検討 ⑭博士論文のテーマに関連した他の先行研究と検討している特定論文の比較 ⑮博士論文のテーマに関連した特定論文の評価と今後の方向性の検討							
1年次・秋学期 ①オリエンテーション ②博論で扱う研究課題の検討 ③博論のテーマと関連する先行研究の問題提議の検討 ④博論のテーマと関連する先行研究の方法論の問題点 ⑤博論のテーマと関連する先行研究の方法論の問題点 ⑥博士論文で取り上げようとしているテーマの問題 ⑦博士論文のテーマに関連した複数の文献の紹介 ⑧博士論文のテーマに関連した複数の論文の問題点の比較・検討 ⑨博士論文のテーマに関連した複数の論文の方法論の比較・検討							

- ⑩博士論文のテーマに関連した複数の論文の結果の比較・検討
- ⑪博士論文のテーマに関連した複数の論文のデータ分析の比較・検討
- ⑫博士論文のテーマに関連した複数の論文の考察の比較・検討
- ⑬博士論文のテーマに関連した複数の論文の考察の問題点の比較・検討
- ⑭博士論文のテーマに関連した他の先行研究と検討してきた複数の論文の比較
- ⑮博士論文のテーマに関連した複数の論文の評価と今後の方向性の検討

2年次・春学期

- ①オリエンテーション
- ②博士論文を構成する研究の倫理規定について
- ③博士論文を構成する研究のデータ収集についての検討(1)
- ④博士論文を構成する研究のデータ収集についての検討(2)
- ⑤博士論文を構成する研究のデータの整理の仕方についての検討(1)
- ⑥博士論文を構成する研究のデータの整理の仕方についての検討(2)
- ⑦博士論文を構成する研究のデータの整理の仕方についての検討(3)
- ⑧博士論文を構成する研究のデータ分析についての検討(1)
- ⑨博士論文を構成する研究のデータ分析についての検討(2)
- ⑩博士論文を構成する研究のデータ分析についての検討(3)
- ⑪博士論文を構成する研究のデータの結果表記についての検討(1)
- ⑫博士論文を構成する研究のデータの結果表記についての検討(2)
- ⑬博士論文を構成する研究のデータの結果間の関係の検討(1)
- ⑭博士論文を構成する研究のデータの結果間の関係の検討(2)
- ⑮博士論文を構成する研究のデータの結果間の関係の検討(3)

2年次・秋学期

- ①オリエンテーション
- ②博士論文を構成する研究のデータの記述についての検討(1)
- ③博士論文を構成する研究のデータの記述についての検討(2)
- ④博士論文を構成する研究のデータの記述についての検討(3)
- ⑤博士論文を構成する研究のデータの整理の表記についての検討(1)
- ⑥博士論文を構成する研究のデータの整理の表記についての検討(2)
- ⑦博士論文を構成する研究のデータの整理の表記についての検討(3)
- ⑧博士論文を構成する研究の分析結果の記述についての検討(1)
- ⑨博士論文を構成する研究の分析結果の記述についての検討(2)
- ⑩博士論文を構成する研究の分析結果の記述についての検討(3)
- ⑪博士論文を構成する研究結果の記述についての検討(1)
- ⑫博士論文を構成する研究結果の記述についての検討(2)
- ⑬博士論文を構成する研究結果の記述についての検討(3)
- ⑭博士論文を構成する研究のデータの結果間の関係の記述の検討(2)
- ⑮博士論文を構成する研究のデータの結果間の関係の記述の検討(3)

3年次・春学期

- ①オリエンテーション
- ②博論における問題の記述(1)
- ③博論における問題の記述(2)
- ④博論における問題の記述(3)
- ⑤博論における方法の記述(1)
- ⑥博論における方法の記述(2)
- ⑦博論における方法の記述(3)
- ⑧博論における結果の記述(1)
- ⑨博論における結果の記述(2)
- ⑩博論における結果の記述(3)
- ⑪博論における結果の記述(4)
- ⑫博論における考察の記述(1)
- ⑬博論における考察の記述(2)

三宅俊治

- ⑭博論における考察の記述(3)
- ⑮博論における考察の記述(4)

3年次・秋学期

- ①オリエンテーション
- ②博論における問題の記述の推敲(1)
- ③博論における問題の記述の推敲(2)
- ④博論における問題の記述の推敲(3)
- ⑤博論における方法の記述の推敲(1)
- ⑥博論における方法の記述の推敲(2)
- ⑦博論における方法の記述の推敲(3)
- ⑧博論における結果の記述の推敲(1)
- ⑨博論における結果の記述の推敲(2)
- ⑩博論における結果の記述の推敲(3)
- ⑪博論における結果の記述の推敲(4)
- ⑫博論における考察の記述の推敲(1)
- ⑬博論における考察の記述の推敲(2)
- ⑭博論における考察の記述の推敲(3)
- ⑮博論における考察の記述の推敲(4)

教科書			
教・書籍名 1	テキストは使用しない。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	